



千葉動力車

職場に差別と分断持ちこむ「小集団活動」

今、「小集団活動」が、形式的に名前だけを掲げているレベルだけでなく、七〇年代前半、国鉄職場を荒廃させたマル生運動に似た様相を呈しはじめています。

また、正式な「小集団」になっしていないものの、その形成をめざし一部の者と管理者との定期的会合、飲み喰い等がもたれている箇所もある。

動労千葉は、こうした状況を見すえ「小集団活動」の本質をつかみ、組織破壊攻撃に対しては総力で反撃に立つことを決定し、全支部でその闘いに突入している。

今号では、表面とは裏腹にドス黒いその正体、「勧誘」の手口、「活動」の行き詰まりについて、事実を側して暴露し、断罪したいと思えます。



「もともと効率化を」 「もっとコスト削減を」 京葉電車の「JK」活動

「小集団活動」が、七〇年代マル生攻撃を経験した組合員なら即座にそれがマル生運動の「現代版」であることを見抜くことが出来る。つまり、表面をいかに着飾っても、会社当局の意図するところは、職場に「良い子」「悪い子」をつくり

りあげ、差別と分断を持ち込むことにより、闘う団結を解体し、より一層の首ぎり合理化をおし進めるといふものである。京葉電車区の「JK」・「京葉マンパワー」は昨年三月の本社発表大会でそのことを露骨に「決意表明」している。

「いつまでも二等級じゃ可愛相だ。小集団に入れば昇進、昇格に有利」
「盗人猛猛しいとはこのことである。当局自ら昇進、昇格の道を断つておいて「可愛相」「君のためを思つて」はなぬいふだ。

「小集団」への誘い込みの手口は、それぞれの区、駅、条件に側して展開されているが、共通していることは管理者等による飲食の誘い、超勤等によるカネでの「誘惑」である。
当局は安全、保守、旅客サービス

「小集団」への誘い込みの手口は、それぞれの区、駅、条件に側して展開されているが、共通していることは管理者等による飲食の誘い、超勤等によるカネでの「誘惑」である。
当局は安全、保守、旅客サービス

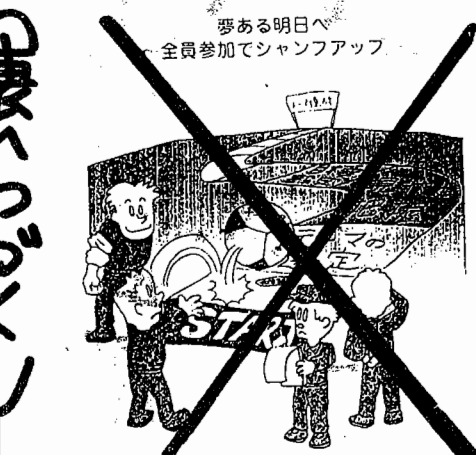
「勧誘の手口」

「暴力団顔負けの仕返し、利益誘導、煽動」

「超勤ドロボー」
それが実態

N駅の「小集団」の中心はJR総連と管理者である。他労組の参加については「かきまわされる」からとして参加を「拒否」している。

一週間に約一回の規模でコンソと会合を開いている。しかし、そこで何をどう「研究」したのかさえ他のグループにも知らされていない有様である。しかし、月々の超勤だけはガツポリ懐に入れているのである。彼ら「小集団」は別名「超勤ドロボウ集団」とあざ笑われているのが実態である。およそ、「夢ある明日を創造するための自主的活動」などという代物では全く無いのである。



社長(住田)自ら

小集団活動の

行き詰り状態である

「小集団」は、その本質においてマル生と同一であり、美辞麗句はしよせん空文句にすぎない。正体が見抜かれたとたんに破産の運命にあることはマル生運動が証明している。

すでに、「小集団」が行きずまっつていふことを住田社長自ら認めているのである。

93年・小集団活動終

これまで順調な経営を続けてきたが、景気の影響で当社も厳しい環境といわざるを得ない。略：気掛りなのは小集団活動等壁にぶつかっていることだ。略：更に努力を。

(あいつ). 公大 表

※解説は不用である。「小集団」もJR総連革マルの危機と符号し、完全に行きずまり、解体の坂をコ

ロけはじめていっているのである。断固たる追撃を。これがわれわれの回答である。

国鉄マル生の70年代し推進者 とももの悲愴な末路を

当時マル生運動に利用され、先頭に立っていた者たちが、気がついた時には当局からさえ見放され、孤独のうちに心に深いキズを残しながら「裏切り者」の烙印を背負

い国鉄を去っていった。これほど辛く、淋しいことがあるだろうか。この教訓をしつかりと胸にし、組織破壊粉碎に立ちあがろう。

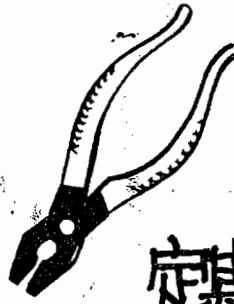
JR総連解体！組織破壊断固粉碎！



一月九日一〇日、館山市・民宿「伝平」において第五回車両技術分科会定期委員会が開催された。定期委員会には、分科常任委員をはじめ、各職場より一六名が結集して成功裡に行なわれた。

冒頭あいさつに起った斎藤分科会長は、「年度末合理化をはじめとする合理化が矢継ぎ早にかけられている。職場要求などを含め全体で討議していこう。」と参加者

粉砕なぞ 闘う方針決定



車両技術一分科会
定期委員会開催

に訴えた。続いて経過、方針などの提起を受け、質疑に入った。質疑では、年度末合理化の問題点について、小集団活動について、職場要求などの意見が出された。今回の委員会は、二日間かけて行なわれ、十分に討議の時間がとれ、大変有意義なものとしてあった。

参加者は、年度末合理化と全面的に対決し、合理化阻止にむけて全力で闘う決意を固め散会した。



一九九四年